

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい 西・東ユニット		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成30年 5月 20日	評価結果市町村受理日	平成30年 8月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームで、笑いが絶えない居心地の良い居場所創りを心掛けています。同じ建物内にある地域密着型の小規模多機能型居宅介護の利用者様との交流をし、飽きの来ない工夫をしています。年間を通し、地域の方と交流が出来る場をもうけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_021_kani=true&JgyosyoCd=2298200011-00&PrefCd=22&VersionCd=021

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成30年 6月 21日		

「地域との交流の下で、入居者の地域住民として安心安全で飽きのこない暮らしを」の理念に沿って地域との交流の受け入れにも力を入れ家族との協力も密にしている。近隣の子供たちや、地元からの入居者も多い為、馴染みの高齢者との交流があり楽しみのある生活が送られている。介護経験浅い職員もベテラン先輩との勤務体制に配慮されていて、相談や指導を受けることができ、温かい介護に繋がっている。併設の小規模多機能施設には看護師や作業療法士も勤務しており利用者の健康面や身体的機能面で日常的に相談ができ、的確な支援の協力がある為安心安全な生活が送られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来る。	地域密着の事業所として「地域住民として安心・安全な生活を送り、地域との交流の下あきの来ない暮らしの支援にあたる」法人の理念は職員に浸透している。理念に沿って対応しているか考え話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事を通し、同地区の子供会、敬老会、女性の会の方達との交流の場を設け、地域の一員として暮らしています。毎月新聞を同地区と隣地区に回覧してもらっています。	利用者・職員は地元の人が多く、事業所主催の行事や散歩時などで知り合いとの交流をしている。シニアサロン・子供会との交流等「今年はこんなことをしたい」など提案があるようになり、定着してきている。日常的に面会や見学に訪問してくる人も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回地域の方に運営推進会議に参加して頂き、現状報告と共に認知症への理解を深めています。また、夏祭りには地域の方を招待し、入居者様、利用者様との関わりを持って頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加して頂く運営推進会議には、様々な方に参加して頂き、現状報告をし、意見を頂いたり、相談を受けたりし、その内容をサービス向上に活かせるようにしています。	計画を立て、案内を出して2ヶ月に1回の定期開催をしている。第1回と6回は行政・包括支援センター職員・地域役員・子供会役員など参加し運営についての話や提案を聞き話し合いをしている。シニアサロン・子供会・家族と利用者との交流等を行い、地域や家族に理解や支援を得る取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事や会議などに市担当者の参加要請をしています。現状やサービス内容について相談したりし、意見や助言をして頂いています。	行政の窓口に出向いたり、電話で相談をしている。、地域福祉課に生保受給者の日常の様子を伝え、連携を取っている。地域包括支援センター職員とは空情報の連絡や困難事例の受け入れ等協力関係を築いている。介護相談員が定期的に訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話に出し、身体拘束をしない事を理解し、ケアをしています。	家族に説明し了解を得てセンサーを置いてある居室がある。利用者のケアについて職員からの提案から拘束にあたるかの話し合いをし、理解をしていくようにしている。言葉による「行動制限」については本人が傷つき状態が悪化するなど事例を記録に載せ注意している。	

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員との個別の話し合いや、ミーティングなどで意見交換をし、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時にはいつでも支援できる体制をとれるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解りやすい説明を心掛け、一つずつ確認しながら進めています。また、質問があった時には、理解し、納得して頂けるよう説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加のお誘いや、事業所入口に意見箱の設置をしています。また、面会や電話などで意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めています。	利用者が希望する買い物や食べたい物、行きたい場所など記録し、直ぐではなくても叶えられるようにしている。家族に送る新聞に個人のコメントを記入し、面会時や電話で状態を伝え意見を聞くようにしている。感想や思い等聞けるが意見や要望はあまりない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員への声掛けをし、意見や提案を聞いています。また、どんな事でも話せるような雰囲気を中心掛け、聞いた意見や提案が反映できるよう代表者と話し合いをしています。	管理者は職員が何でも言える環境を作り、会話を多くするようにしている。車椅子使用時靴が脱げて落とすことが重なるので「足型を取って布製の履物を作ってあげたい」提案に皆で話し合っって作った。ケースによっては併設事業所と連携し反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人をよく理解して、個々に合わせた対応をしてくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内が来ると進めてくれたり、職員が受けた研修などがあれば、費用を補助してくれたり、研修に行きやすい体制を創ってくれています。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が行う研修会などの参加をすすめたり、訪問したりしてネットワークを広め、サービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、要望に応えられるよう寄り添い、よく観察をし、不安な事、困っている事をよみとり、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望をよく聞き、本人の意向や要望にも沿ったうえで、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識が持てるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状態、環境などを理解し、その時その時に合った支援を提案、提供し、本人と家族が必要とするサービスが利用できるような努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、同じ食事を摂り、入居者様に寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠である事を話し、家族と施設は「チーム」として考えている事を話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るようにしており、日頃、昔の話を聞いたりして思い出してもらおうなどしています。また、馴染みのお店に行ったりして関係が途切れないように努めています。	利用者は地元の人が多く、友人・知人とシニアサロンや1階のデイで会い、散歩で挨拶を交わし交流が続いている。以前行っていた店に買い物に行ったり、馴染みの場所に行きたい希望に病院の帰りに寄ってくる。家族に伝え家族が対応して叶えられるよう支援をしている。	

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や利用者同士の関係を把握し、全員が一体感を持って安心して安全に暮らせるように職員が架け橋になるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時に「相談があればいつでも言ってください」と、必ず伝え、相談があった時には出来る限りの対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の会話の中で、「希望、意向、要望」が聞き出せるよう、また感じ取れるよう努めています。	以前の情報で声掛けしても今の思いと違ってきていることがあって、好み等変わってきている。夜間1対1になる居室で夜勤者に話をしてくれることがあり、申し送りでその人の思いを伝えている。発語が困難な人の表情を観察し職員が感じ取り、思い図るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりして、一人一人のこれまでの暮らしを把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムや、心身状態、持っている力を把握し、出来る事、出来ない事を見分け、状態変化があった時には申し送りノート等で全員が把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を立て、支援できるよう努めています。	ケース記録を見て、職員に状態や意見を聞き、本人の思いは聞いた言葉をそのまま載せている。健康状態や判断した根拠・予後予測・ニーズなど具体的な誰が見ても解り易い、施設独自の「課題整理統括表」を作成している、家族に説明し意向を聞いて介護計画書を作成し確認を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動、気になる様子など支援に必要なキーワードは記録し、全員で共有し、実践や計画見直しに活かせるよう努めています。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、一人一人の状況に合わせた、柔軟な対応ができるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所に行き買い物をしたり、外食を楽しむことがあります。また、近くを散歩したり、公園に出かけるなどして、暮らしを楽しめるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力医療機関を希望される方が多いですが、今までのかかりつけ医を利用される方の場合も施設と病院と連携をとりながら支援しています。	契約時に家族に医師との関係作りをして欲しいと伝えている。定期受診は医師の判断で2週に1回と月1回の人っていて、管理者か看護師が連れて行っている。以前からのかかりつけ医に家族対応で受診している人の結果は家族から聞くが、事業所からも医師・薬局に聞いて確認をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師といつでも連絡が取れる体制をとっています。また、協力医との連携をとり指示をもらい適切な対応が出来るよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の正確な状態把握に努め、入院した際には正確な情報をスムーズに提供できるように努めています。また、病院のケースワーカーなどと日頃連絡を取り関係作りにつ努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態に変化があった時や終末期に近いと思われる家族とは、今後の方針について話し合いをし、協力医にも関わってもらい支援に取り組んでいます。	現在、全利用者は施設での看取りを希望している。出来ることの説明をし同意書を交わして、状態の変化があった時再度確認をして同意書は何度も取り直している。看取り時期に入った時医師の往診を受けられ、家族の協力の下、看取りの支援に取り組んでいる。今年度はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的のは行っていませんが、職員の入れ替わりや、前回の講習の時期を見計らって行っています。昨年AED講習を行いました。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行っており、消防署と地域の防災委員の方に声掛けをし行っています。また、津波災害の危険があるため1回は津波想定、ライフジャケット、ヘルメット着用訓練もしています。	年2回所設の施設各回で行い、消防署が来て指導を受けている。2地区の防災委員は人を替え年1回づつ参加して施設内の見学をしている。シューターと滑り台から降りてくる利用者を見守ってもらえるよう依頼してある。手製のそりに利用者に乗せロープでゆっくり滑り台から降るす避難訓練をしている。今年度は夜間想定訓練を行っていない。	夜間想定訓練は2年に1回と決まっているが、災害は何時起こるか解らないので、職員の安心のためにも夜間想定訓練の実施と水は飲料水を含め、備蓄品の補給に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添ったケアをする事で人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛け、対応をしています。	敬語で話しかけると不愉快な思いを感じさせてしまうことがあり、あくまで丁寧な言葉使いをし、その人に合わせた対応をしている。入浴時や排泄時はプライドを傷つけない、羞恥心に配慮した対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、オープンクエストとクローズドクエストを使い分け、自己決定出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっていますが、一人一人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回床屋さんに来ていただいており、希望通りに散髪、顔剃りをし、身だしなみを整え清潔感が保てるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で、同じ物を食し、話をしながら楽しく安全に食事が出来るよう努めています。	献立を立て食材は地元のスーパーへ発注し、配達されてきている。2ユニットの利用者・職員分を調理専門職員が作っている。魚屋に頼んで食べやすく切った刺身は皆に喜ばれている。弁当や助六寿司を作って食べることや個別に希望を聞いて外食に出かけることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、必要量が摂れているか確認し、その都度対応しています。また、一人一人に合わせた食事形態で提供しています。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛け、介助をしていますが、毎食できない方もおり、夕食後に重点を置き一人一人に合った口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導、見守りにて支援しています。紙パンツから布パンツに移行出来ている方もいます。	訴えができにくくなっている人の動きを見逃さず、立ち上がった時、表情の変化を確認した時、大きな声でなく、さり気なく誘導してトイレでの排泄を支援している。自宅や病院でリハビリパンツ使用の人が温度が安定している施設の環境や適切な誘導で布パンツに変更になった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事で野菜を多く取り入れたり、体操や歩行運動などを行い便秘予防に取り組んでいます。また、ヨーグルトを作りおやつに食べたりして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度の入浴をしてもらっていますが、入浴が好きな方や、その日の状況で入浴して頂いています。	入浴日チェックを見て順番に声掛けしている。拒む人には無理強いすることなく、声掛けの職員を替えたり、言葉掛けの工夫をし納得して入浴できるよう支援している。時節に菖蒲湯・柚子湯は皆に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をして頂いたり、夜の入床時間もそれぞれの生活リズムに合わせて		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りの服薬介助を行っています。通院後の記録を確認する事で、薬の変更など把握し、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割とし行って頂くことで、持っている力の維持を兼ねて支援しています。また、嗜好品などの買い物や、外に出かける事で気分転換や楽しみを作れるよう支援しています。		

静岡県(グループホームサンシティあらい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿えるよう支援していますが、希望に沿えない日には話をし予定を組んで出かけています。	ベランダや駐車場に出て外気浴や散歩・買い物に出かけている。自宅や生家、友人の家、以前散歩していた場所に行きたいなど希望を聞くと通院の帰りに近くを回ったり、家族の協力の下出かけている。お弁当を持って花見等に行っている。	全体で出かけるのは困難になってきているが、少人数で外に出かけ近所の人や子供達とのふれあいにも繋がる外出支援に取り組む事に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族と施設で管理していますが、ご本人の希望があり、ご家族の同意の下、ご家族とご本人の納得の額を本人管理し、その中で買い物を楽しむ方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご本人が電話を掛けたり、電話口に出てもらいご家族や知人と話が出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドの調整をする事で、自然な光が入るようにしています。寒い時には日が当たる南側にソファを持って行き、日向ぼっこが出来るようにしています。また、季節季節でフロア内の飾りを工夫しています。	高い天井・窓は大きく、日当たりの良い明るい開放的な空間である。管理者は職員と利用者の体感はずっと温湿度計他「熱中症度顔マーク」をフロアに掲示し、職員は常に見て対応している。換気や除菌対策をして消臭や感染症に気を配り、清潔な空間になっている。利用者の目に留まりやすいよう立体的に干支や季節の飾り物を作り飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を行う時には、みんなでテーブルを囲んだりして時間を共有して過ごしますが、基本的には、自由に思い思いに過ごして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震など災害時の安全上、重いたんすなどの持ち込みは遠慮して頂いていますが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く安心して過ごせるよう支援しています。	以前からの習慣や転落の不安のある人は布団を敷いている。冷蔵庫・電気毛布・電気ストーブなど食物の劣化や発熱危険のあるもの以外は持ち込み制限はなく、テレビやぬいぐるみ・家族の写真など好きなもので囲まれ、家族と職員で、安全で居心地よく過ごせる居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように、障害物をなるべく取り除いています。また、手摺りを使って安全に歩行出来るように常に見守り介助をしています。		